

徳島で“平屋”が人気 住宅メーカー「需要は今後も高く」 移動が楽、家族と会話しやすい

2025/09/05 05:00



上田さんが建てた平屋。黒い外壁が高級感を出している

[写真一覧を見る](#)



上田さんの平屋の室内。廊下がなく開放的だ＝いずれも徳島市内(画像の一部を加工してあります)

徳島県内で平屋住宅を建てる人が増えている。なぜ平屋なのか。実際に平屋を新築して暮らしている2組の家族に話を聞いた。

徳島市の公務員上田健一郎さん(29)は妻(29)、長男(2)の3人暮らし。260平方メートルの土地に約100平方メートルの平屋を建てた。当初から「家を建てるなら平屋」と考えており、2023年2月ごろから広めの土地を探し、同年12月に完成した。

平屋にした理由は、老後の生活を考えると階段の上り下りがない方が良かったからだ。廊下や壁などを極力省いて居住空間を確保。20畳のリビングを設け、子ども部屋も二つ作った。家は上から見ると南に開いたコの字型となっており、大きめの窓を備えて開放感がある。

住んで2年近くたつが、上田さんは「平屋にして正解だった」と言い切る。疲れていても寝室が目前にあるので楽だという。「キッチンから風呂場や洗濯機のある場所にすぐ行けるなど動線がコンパクトなので、家事がしやすい点も気に入っている」と笑顔を見せる。

徳島市の会社員福山直弥さん(32)は24年10月、親族が所有する400平方メートルの土地に約120平方メートルの平屋を建築した。

妻(30)と長男(5)、次男(3)、生後2カ月の長女の5人家族。重視したのは家族が集まるリビングの広さで、26畳を確保した。子どもたちとコミュニケーションを取りやすくし、一緒に過ごす時間を大切にしたいかったのだ。子ども部屋は二つだが、間仕切りを設けると三つにできるように設計してもらった。

福山さんの実家は2階に自身の部屋があったが、思春期には帰宅しても玄関から階段を上がり、親の顔を見ないまま部屋に入ることがあったという。「自分の体験からも、常に親子が顔を合わせる家にしたかった」。妻も気に入っており、2人で「平屋にして良かったね」と話すこともあるそうだ。

国交省によると、県内で新築の居住専用住宅(アパートやマンションなど含む)のうち、平屋の割合は19年度に15・9%だったが、24年度は30・5%と5年で約2倍に増えた。香川県は24年度で56・5%と半数以上が平屋だ。

2組の家族が建築を依頼した注文住宅設計・施工のはなおか(北島町)は、16年に県内でいち早く平屋のモデルハウスを建てた。当時から平屋を希望する客がいたことから、潜在的な需要があると考えたからだ。現在は注文の約3割が平屋だという。

10月に高松市にオープン予定のモデルハウスは、従来より天井を高くして室内が広く感じられるように工夫した。天羽英樹社長は「核家族化やライフスタイルの変化などもあり、若い世代を中心に平屋を選ぶ人はますます増えるだろう」と話している。